

## 2021年3月期通期決算説明会（オンライン）の主な質疑応答

Q：半導体不足の影響について、オートモーティブ（AM）だとアフターが大きいのか、ASKのような子会社が大きいのか、どういった製品なのかなど、傾向があれば教えてほしい。また御社が生産できない問題と、納入先である自動車メーカーの減産の問題とでは、どちらが大きいのか？

A：AMで言うとナビゲーションや一部のドライブレコーダーの部品が足りない状況。アフターとOEMの用品は共通部品も多いので、両方に対する不足となる。用品系は契約などもあるので、数が足りない中でどこを優先するかということになると、用品向けを優先せざるを得ないことになるため、どちらかと言えば、アフターの方に大きな影響が出る可能性がある。またASKについては一部苦労していることもあるが、在庫も多いので現時点では大きな影響はない見込み。また自動車メーカーからの要求に100%回答ができていないことから、自動車メーカーの減産影響より、当社生産の問題の方が大きいと見ている。

Q：業務用無線のビジネスインダストリー市場は、今後どのように改善していくと見ているか？

A：ビジネスインダストリーはアメリカが中心ということもあり前期の上期はかなり苦戦したが、後半に入って戻ってきているので、今期は堅調に推移すると見ている。火災による半導体問題が若干発生すると思うが、それを除けばほぼ例年並みの実績まで戻るのではないかと見ている。

Q：キャッシュフロー（CF）の考え方について、終わった期は設備投資の抑制などによる効率的な投資で、財務の改善につながったと思うが、今期の目標と今期の投資の考え方は？

A：前期はリースを含む使用権資産を除くと、設備投資は有形無形あわせて140億円弱くらいの実績だった。これは例年と比べると40～50億円は少ない水準で、開発機種の絞り込みなどを行った結果。今期はAMの用品系で受注が取れている案件もあり、180億円弱くらいの投資を見込んでいる。社内的にはその他の投資を含めて200億円ほどを見込んでいるが、コロナから戻ったからと言って、そのまま増やすつもりはないので、実質的にはさらに絞り込みをかけたいと思う。

Q：計画の前提として費用の増加（償却費、開発費）をどれくらい見ているのか？また半導体不足のリスクはどれくらい織り込んでいるのか？

A：前期はかなり絞り込んだので、開発費等で40～50億円くらいの増加は見込んでいる。ただこれは半導体不足を織り込む前の数字なので、現状はここまで増やすのは難しい見込み。半導体不足の影響は、非常に先が読みづらい状況だが、現段階では売上は100億円前後、利益では30～40億円程度になる見込み。

Q：AMのアフターが堅調に推移する中、前期はCOVIDの影響もあって他社も新製品が出てこないということもあったと思うが、競争関係が今後変化する可能性はあるか？また、価格圧力のリスクをどう見ているか？

A：AMのアフターの前期は他社の動向もあって、当社も助けられた部分もあると認識している。現時点では他社が急速に回復するとは見ていないので、大きく環境が変わるとは現時点では見ていない。

Q：ドライブレコーダーも市場の拡大とともに当社もさらに業績を伸ばしていけると見ている？

A：今後競争相手がさらに増えるとは考えにくいので、今の競争を維持しながら、単価アップに加えて市場の拡大にあわせて今期も増えていくものと思う。

Q：フリーCF（FCF）が前期良かったが、今期の営業CF、投資CF、財務CFの考え方は？ネットデットはだいぶ減ったということだが、今期の考え方は？

A：前期はコロナの影響もあって、特に上期中心にキャッシュアウトを減らした。投資も減らしたということもあって、キャッシュは想定以上に良かった。それに対して今期は、半導体不足の影響で生産がどこまでできるかということもあるが、売上は回復してくると考えているので、昨年のFCFの中の改善で大きかった運転資金は今期は70～80億円程度悪化の方向で見ている。FCFは投資も増える中、前期は200億円以上出ているが、今期は50～60億円程度のプラスになると見ている。

Q：このくらいの水準のFCFが出るのなら、今後有利子負債を返済していくことになるのか？

A：徐々に減らしていく方向で検討している。

以上